

地域学校協働本部

◆地域学校協働活動事業

- ①学習支援活動
- ②家庭教育支援活動
- ③地域活動・ボランティア活動

県モデル事業として、
2017～2019年度
の3カ年で実施して
います。

◆学校支援活動事業

- ◎登下校の見守り、部活動支援、授業への協力 など

◆放課後子ども教室事業（西小わくわくクラブ）

**県モデル事業で
「地域学校協働本部」を設置**

町では、平成29年度に県モデル事業の委託を受け、「地域学校協働活動事業」として①学習支援活動、②家庭教育支援活動③地域活動・ボランティア活動に取り組んでいます。また、これらの事業を推進するため、全てを総括した

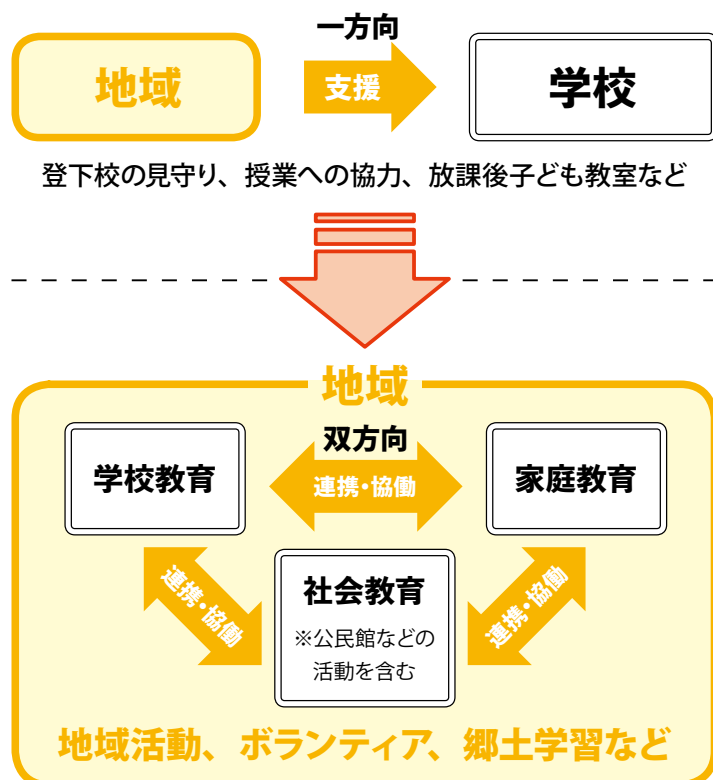
「地域学校協働本部」を設置し、活動計画やコーディネート等、ネーター等の配置、活動の評価・検証などを行っています。本部の推進委員は、学校関係者やPTA、各団体の代表者、元教員などで構成し、さまざまな意見を交わしながら試行錯誤を重ね、事業を進めています。



「地域学校協働本部事業」がこれまでの活動と最も異なる部分は、「連携・協働」を推進しているという点です。地域から学校への一方の支援だけでなく、学校や家庭、地域が双方向に連携し、協働で活動を行っています。互いに支援し合うことで、地域の特性を生かし、教育の

- 期待される効果
- ◎地域における子育て環境の整備
 - ◎地域資源を生かした子どもたちの豊かな学びの実現
 - ◎子どもたちの地域への愛着の醸成
 - ◎地域の担い手の増加
 - ◎地域の活性化
 - ◎人口流出の抑制 など

「支援」から
「双方向の活動」へ



「学校支援」から「連携・協働」へ

つながり広がる

「地域学校協働本部事業」

町では、地域と学校が連携しながら地域全体で子どもの成長を支え、地域を創生する活動として、「地域学校協働本部事業」を推進しています。学校と地域と家庭が相互に連携し、明るい未来の土台を創っていく。今月号では、「地域学校協働本部事業」について紹介します。

これまでの取り組みと
新たな事業「地域学校協働活動」

さんが、学校
内外で子ども
たちの成長を

町では、平成28年度まで「放課後子ども教室事業」や「学校支援活動事業」を通して、地域の皆さんの協力の下、さまざまな学校支援を行ってきました。

具体的には、児童生徒の登下校の見守りや、授業への協力、放課後や休日の体験活動支援などで、多くの地域の皆

見守り、支えてきました。しかし近年、全国的に少子高齢化が進み、共働き世帯・一人親世帯が増え、家庭教育の困難さや所得格差などの問題が浮き彫りになってきています。子どもたちは、こうした急激に変化する社会で生き抜く力を身に付けていかなければなりません。そして、そ

れぞれが地域を支え、社会を支えていく必要があるのです。そこで、国は新たな事業として「地域学校協働活動事業」を開始しました。この事業では、地域の高齢者や保護者、PTA、民間企業、団体など、幅広い地域住民の参画を得て、地域全体で子どもたちの学びや成長を支え、地域と学校が相互に連携・協働してさまざまな活動を行います。

町の地域学校協働活動①

学習支援活動

学習支援では、地域連携担当教員を務める西会津中の江川新治教諭を中心に、放課後や長期休業を活用した学習会を行っています。この学習会の対象は小中学生で、苦手な



教科の克服や受験対策として活用することができます。地域の退職した教員や塾講師、保護者や絵画クラブの会員など17人の皆さんが指導を行っています。

また、秋季学習会では地元の高校生がボランティアで学習支援に参加しました。小中学生らは、先輩たちの経験などを聞きながら学ぶことができ、少人数できめ細かく指導してもらえるので、会話しながら楽しく勉強に取り組んでいました。

さらに本年度は、漢字能力検定を2回実施し、子どもから大人まで、それぞれが目標に向かって挑戦しました。こうした取り組みは、教員の負担軽減も期待できます。しかし、継続した運営が課題であり、地域の力が必要とされています。

INTERVIEW 1



地域連携担当教員（西会津中）

江川 新治 教諭

地

域学校協働活動に取り組んだことで、子どもたちは学校の教育活動だけでは体験することのできない達成感や成就感を味わうことができたのではないかと思います。

大人と接することで、子どもたちは地域の中で自分が果たさなければならない役割に気づき、自分らしい生き方を知ります。また、地域の人と話し、地域の人が求めていることは何か、そして自分たちができることは何かを話し合うことで、刺激を受けます。こうした経験は一生の財産

子どもたちを育てるには
地域の人との関わりがとても大切
接点を持たせてあげられれば

になるし、地域を誇りに思う気持ちの醸成にもつながったと思います。JRCの発表会では、みんなが大きな声で胸を張り立派に発表していて、活動を通して大きく成長したなど感じました。

少し仕事が増え、先生たちにとっては大変な部分もありましたが、子どもたちを育てていくためには地域の人の関わりがとても大切です。

町にはまだまだ熱い思いを持っている人がたくさんいるので、今後も子どもたちにそうした人との接点を持たせてあげられればと考えています。

町の地域学校協働活動②

家庭教育支援活動

県モデル事業の委託を受ける県内8市町村のうち、家庭教育支援を行っているのは西会津町だけで、家庭教育コーディネーターと家庭教育支援員が相談対応や家庭教育に関する学習機会の提供を行っています。拠点となる相談室「こころのオアシス」は、西会津小の1階にあり、外から直接入る事ができます。ソファや仕切りがあり、安心して話せる空間になっているので、子どもはもちろん、子育て中の親やその家族、地域の人などが、お茶を飲みながら気軽に家庭教育について話すことができます。



い」「相談のきっかけにしてほしい」という思いから始めた活動です。

また、本年度から町内の企業を訪問して行う、家庭教育の「出前講座」を行っています。これは、仕事などで忙しい保護者の皆さんに「子育てに関する話を聞いてもらいた

INTERVIEW 2

誰かに話すだけで
心が軽くなることもあります
気軽においでください

2

年目を迎えた家庭教育相談室「こころのオアシス」では、新たに企業訪問（出前講座）を始めました。普段、仕事で忙しい保護者の方は、なかなか相談に訪れることができません。ですから、相談室で待っているだけでなく、企業に赴き、相談室の存在を知ってもらうと、喜多方警察署の協力の下、スマホやSNSに関する講演会を行いました。参加者の中には、何気なく子ど

もに持たせていた携帯電話の危険性に気づき、はっとする保護者もいました。

今後はより多くの企業を訪問し、家庭教育の分野で支援できればと思っています。

このほかにも、相談内容に応じて専門の機関と連携しながら、個々の問題を解決できるよう努めています。子育ては一人じゃありません。話をするだけで心が軽くなることでもありますので、ぜひ気軽においでください。



家庭教育コーディネーター

家庭教育支援員

紫藤 まりこ 真理子さん

星 よしこ 佳子さん

地域活動・ボランティア活動

地域活動をまとめているのは、今年4月から地域コーディネーターを務める廣瀬さんです。広い人脈と持ち前の明るい人柄で学校や地域、行政などをつないでいます。学校のJRC活動として取り組んだ「ボランティア活



動」では、中学生が自治区長さんと話し合い、活動内容を決めました。介護老人福祉施設で歌を披露したり、一緒にゲートボールや体操を行ったり、地域の特色を生かした活動で地区の皆さんを喜ばせていました。

また、町ゲートボール協会が毎月指導しているゲートボール講習会では、中学生が全国大会に出場するなど、大きな活躍を見せました。「中学生に負けられない」と、大人たちの練習にも熱が入っているようです。

さらに、平成29年度から活動を始めた「大山さゆり太鼓」も、仲間の輪が広がり、本年度には町内外のイベントなどで9回の演奏を行いました。今後も練習を重ね、地域活性化の一助となるよう活動していきます。

INTERVIEW 3

地域と学校の交流について
双方が良くなるようなアイデアがあればぜひ話を聞かせてほしい

町

に住む一員として、何かできることがあればと思いコーディネーターを引き受けました。この事業ではさまざまな活動を行っています。子どもたちは地域の大人から学び、大人たちも子どもと活動することで元気になっているように感じています。こうした好循環を、町全体に広げて行ければうれしいですね。

この事業の課題は、「地域の人の要望をどれだけ活動に反映させられるか」だと考えています。機会があれば地域の人の話を聞くようにしてい

るのですが、正直なところ、そうした機会がありませんのが現状です。ですから、地域の話を聞く体制づくりが急務だと感じています。もし、地域と学校の交流について「双方が良くなるようなアイデア」があれば、ぜひ一緒に話をしましょう。

このモデル事業は来年度が最後の1年。でも、この取り組みはモデル事業が終わってからも本場のスタートだと思っています。判断基準は「子どもたちのためになるか」。地域の皆さんのご理解とご支援をお願いします。



地域コーディネーター

わたる 廣瀬 渉さん

協働活動の先にある、子どもたちと地域の明るい未来のために

地域学校協働活動事業は3カ年のモデル事業であるため、2019年度で終了となります。2年目の活動が終わろうとする今、これまでの取り組みを評価・検証し、改善点はないか、どういった活動方法が効果的なのかを再確認する時期にきています。

学校と地域、家庭が連携した事業を行うことで、新たな

て、子どもたちは体験しながら学び、考え、地域に支えられていることを知ります。

また、地域の大人は、子どもたちと関わることで、やりがいや生きがいを見いだしています。

町では、今後も学校と地域がより連携しやすくなるような仕組みづくりを進め、町民の皆さん同士が共に学び、活

作業が増え、労力も必要となります。それぞれに負担となる部分もありますが、これまでの活動で確かなのは、子どもと地域の大人が関わることで、子どもも地域も元気になっているということです。

この事業がなければ、出会うことがなかったかもしれない人と出会い、会話し、何かを感じ、行動に移す。こうし

躍できる西会津町を目指していきます。

子どもたちのため、地域のために、「チーム西会津」の一員として、みんなで協働活動について、一緒に考え、取り組んでみませんか。

《問い合わせ先》

生涯学習課 生涯学習係
☎ 45-3244



西会津町地域学校協働本部事業が「文部科学大臣表彰」を受賞

学校や地域の協働によるこれまでの教育活動が高く評価され、「西会津町地域学校協働本部」として昨年11月に文部科学大臣表彰を受賞しました。この表彰は、学校と地域が連携して、特色ある充実した教育活動を行ってき

たという証です。

今後も、子どもたちが豊かに成長し、合わせて地域の活性化を図るために、町では、学校や家庭、地域が連携・協働する体制をさらに深めていきたいと考えています。



信城教育長 江添